日本発達障害支援システム学会
2012年度　研究セミナー
研究大会

＝発表論文集＝

=大会テーマ=

『障害者の健康と生きがい支援』

●平成 24 年 12 月 16 日（日）12：00～17：00

●順天堂大学　本郷キャンパス　有山登記念館講堂

東京都文京区本郷 2-1-1

主催:日本発達障害支援システム学会

2012 年研究セミナー・研究大会実行委員会

ご挨拶

メインテーマ：　「発達障害者の健康と生きがい支援」

平素は格別のご高配を賜り、心からお礼申し上げます。この度、第 11 回研究セミナーを、順天堂大学本郷キャンパスを会場として開催する運びとなりました。これもひとえにご参加の皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。本学は来年度開学 175 周年になりますが、現在、医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部の 4 学部、3 研究科そして 6 医学部附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療を通じて社会貢献を進めています。

さて、本学会では、これまで発達障害に関する様々な課題について社会が目指すべきシステムとして生涯発達支援と地域生活支援という観点から検討してきました。これらの支援の到達点が、「発達障害のある方々が生涯を通じ地域の中でいきいきと幸せに生きること、そして学び続けること」であると考えたとき、その実現のためには心身ともに健康であること、生きがいをもっていることが基本となるのではないでしょうか。ところが、「健康」や「生きがい」といった言葉は、身体・精神・社会のすべてを含む概念でもあり、一概に述べることが難しく、本学会として取り組んできた研究を概観しても課題として指摘されながらも具体的な方策が見いだせないのが現状です。よって支援システムの構築には今後も多くの議論と時間を要するといえます。

そこで、今年度の研究セミナーのメインテーマを「発達障害者の健康と生きがい支援」とし、本学の特徴でもある医学及びスポーツ健康科学の分野からそれぞれ記念講演を致します。記念講演①では、本学客員教授の久保田洋一先生によって、「スポーツが発達障害児・者にもたらす影響とその意義ーパラリンピック・アスリートの成長記録よりー」と題して行われ、記念講演②では、本学教授であり精神科医師でもある、広沢正孝先生によって「高機能広汎性発達障害者にとっての生きがいとはー彼らの生きる世界を支えるためにー」と題して行われます。以上の記念講演をはじめ参加者の皆様の発表を基に議論と意見交換を行い、本学会が掲げる発達障害児・者の生涯発達支援と地域生活支援のあり方を考えるよい機会となりますことを、心から望んでおります。

最後になりましたが、本大会が、皆様の研究的交流や実践における研鑽の場としても役立てば幸いです。

2012 年 12 月

日本発達障害支援システム学会

第 11 回研究セミナー／研究大会準備委員会

実行委員長　渡邉　貴裕

会場へのご案内

順天堂大学　本郷キャンパス　有山登記念館講堂
〒113-8421　東京都文京区本郷 2-1-1

■最寄り駅

JR利用

JR 中央線・総武線「御茶ノ水」駅下車（御茶ノ水橋口）・・・・徒歩約５分

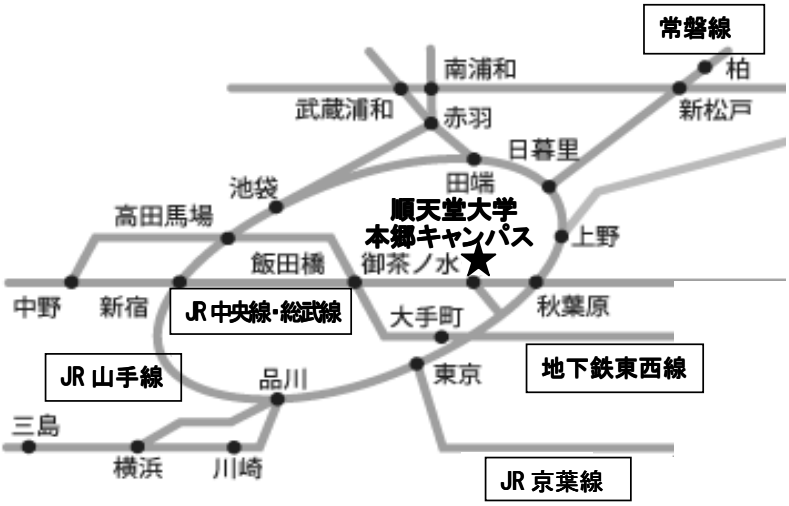
地下鉄利用

（丸ノ内線）「御茶ノ水」駅下車・・・・徒歩約５分
（千代田線）「新御茶ノ水」駅下車・・・・徒歩約７分

バス利用

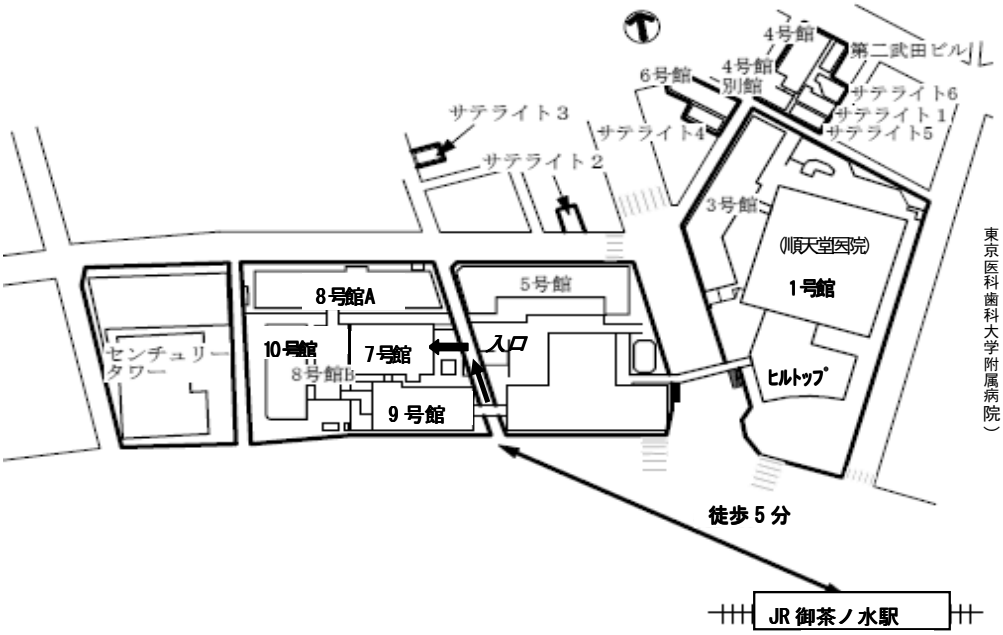
（東京駅北口-荒川土手）順天堂前下車
（駒込駅南口-御茶ノ水駅）順天堂前下車

■路線図駅



■駅からのアクセス

構内案内【順天堂大学本郷キャンパス】



会場案内

受付・記念講演

7号館＝3階　有山登記念館講堂

- ●受付（有山登記念館講堂前）　【12:00～12:30】
- ●記念講演①　【12:30～13:45】
- ●記念講演②　【13:55～15:10】

口頭発表分科会会場　【掲示 15:30～17:00】

第1分科会: 8号館＝1階　3番教室

第2分科会: 9号館＝2階　8番教室

第3分科会: 7号館＝3階　有山登記念館講堂

第4分科会:10号館＝2階　203号室(カンファレンス室)

第5分科会:10号館＝8階　803号室(カンファレンス室)

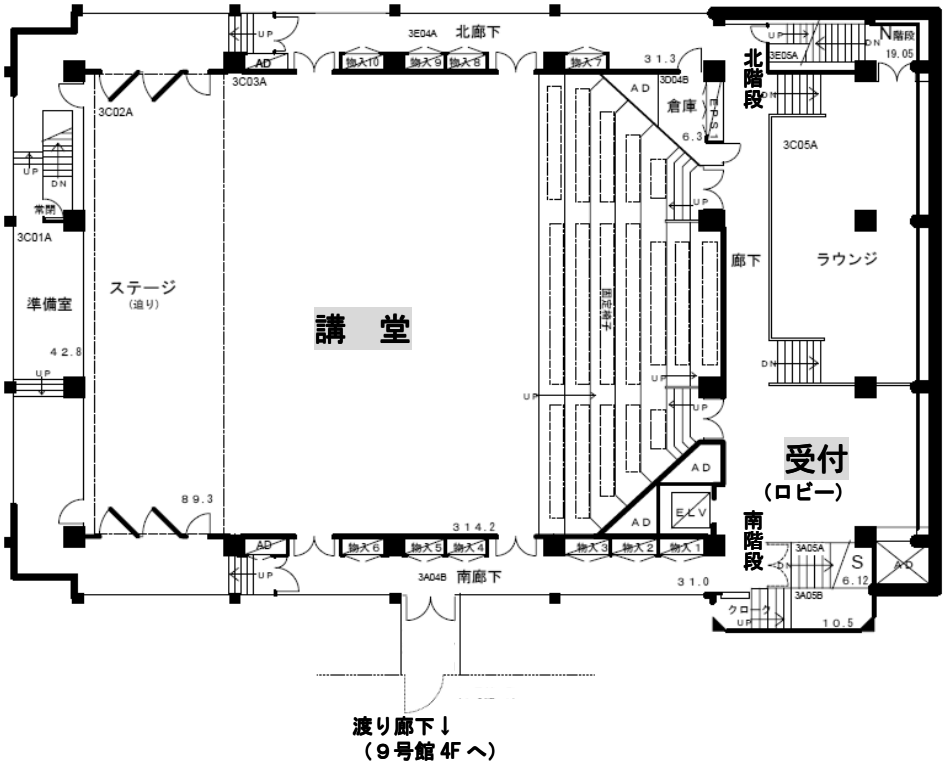
ポスター発表会場　【15:30～17:00】【在席 16:15～17:00】

7号館＝地下1階　職員食堂

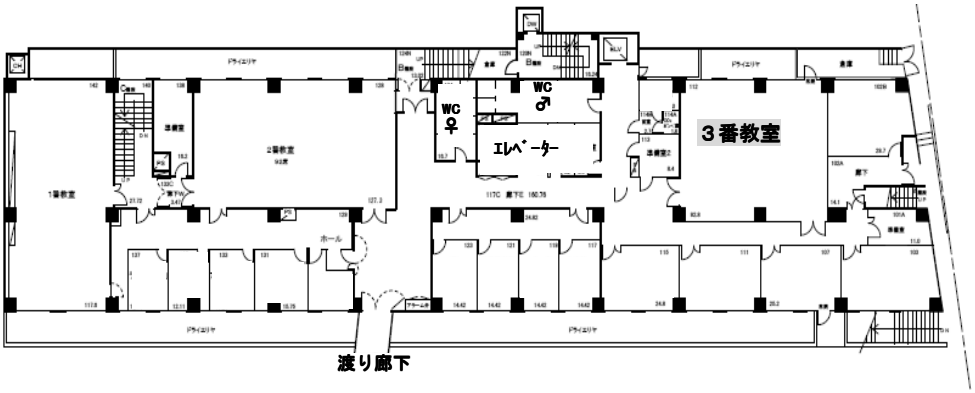
懇親会会場　【17:15～18:30】

1号館＝2階　レストランヒルトップ

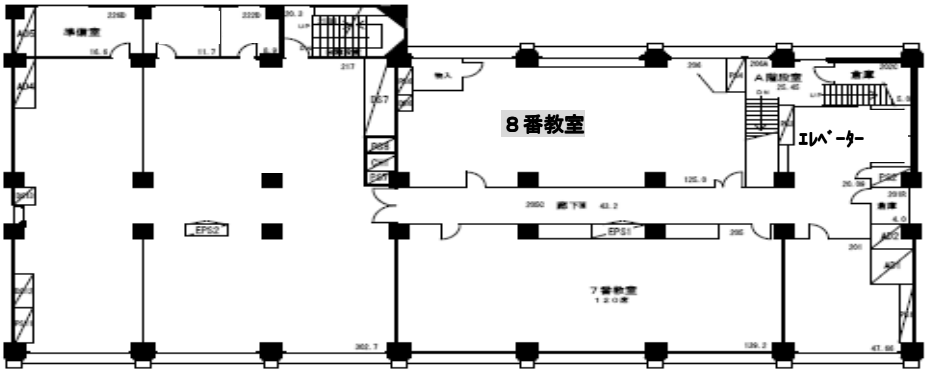
受付・記念講演①・②　、第 3 分科会（学習支援領域）、案内：
7 号館3F（有山登記念館講堂）



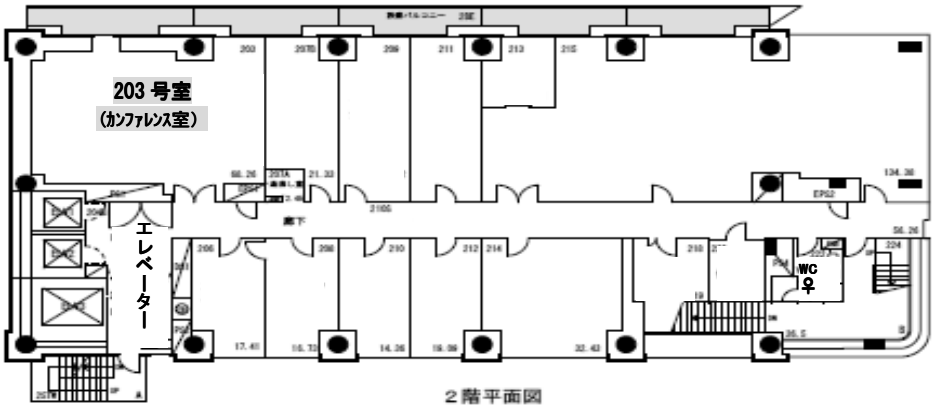
第1分科会（インクルーシブ教育領域）会場　：　8号館　1F　3番教室



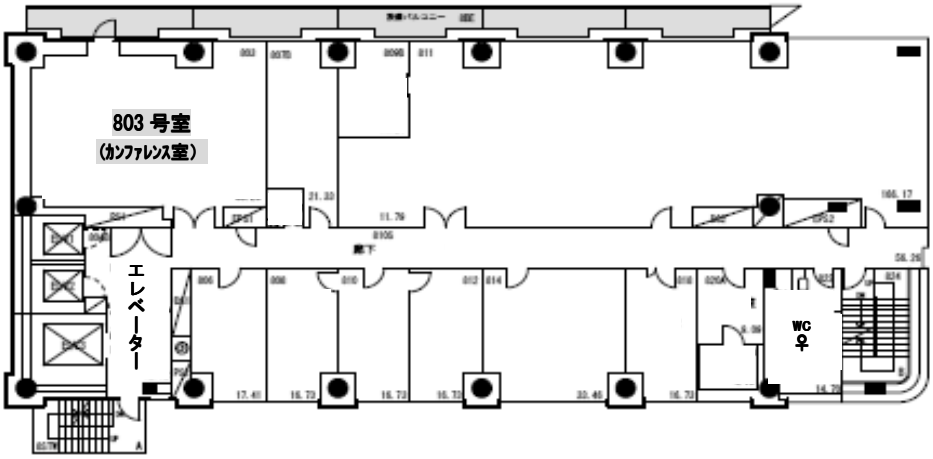
第2分科会（コミュニケーション支援領域）会場 ： 9号館 2F 8番教室



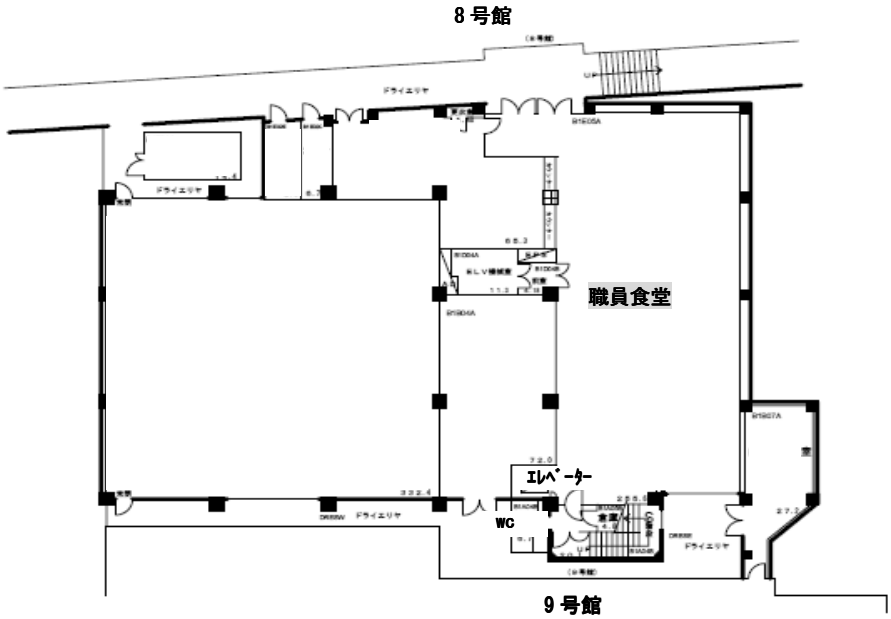
第4分科会（生活支援領域）会場 ： 10号館 2F 203号室（ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ室）



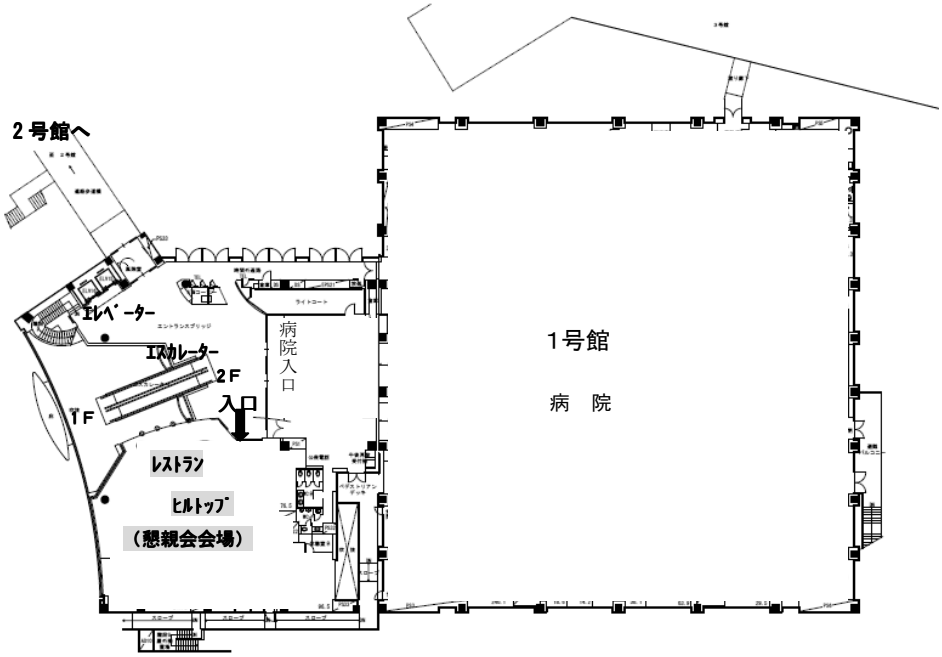
第5分科会（支援システム領域）会場 ：10号館 8F 803号室（ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ室）



ポスター発表Ⅰ・Ⅱ （多領域）会場 ： 7号館 地下1F 職員食堂



懇親会会場 ： 1号館 2F レストラン「ヒルトップ」



参加者へのご案内

Ⅰ　受付

1. 大会期間中は受付でお渡しする参加章（氏名・所属を記入したもの）をお付け下さい。
   参加章は大会参加費の受領証を兼ねています。
2. 受付場所は記念講演を行う、有山登記念館講堂前にて行います。
   受付間は 12:00 からです。
3. 参加費等は以下の通りです。予めお振込みでない方は受付でお支払いください。
   参加費：事前申込（12/6 まで）の場合　2,000 円
   当日参加の場合　2,500 円
   （いずれの参加費にも論文集代が含まれます。
   論文集は当日受付でお渡しします。）
   発表費：１演題あたり　1,000 円
   懇親会参加費：3,000 円（当日参加は¥3,500）

	事前申込（12/6まで）	当日参加
参加費	2,000円	2,500円
発表費	1,000円	—
懇親会費	3,000円	3,500円

Ⅱ　会場関係

1. 会場
   会場は記念講演：有山登記念館講堂、分科会：8 号館 3 番教室、9 号館 8 番教室、10 号館 203 教室、10 号館 803 教室、ポスター会場：有山登記念館講堂地下です。
2. 喫煙について
   本学構内は禁煙です。喫煙は建物外の喫煙指定場所でお願いします。
3. お車について
   駐車場はございませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。

Ⅲ　懇親会

各種分科会・ポスター発表終了後の 17:15 から、順天堂医院 1 号館 2 階、山の上ホテル直営レストランヒルトップにて懇親会を行います。
懇親会は当日も参加受付をしますが、人数に限りがありますので、できるだけ事前にお申込みください。参加費は 3,000 円です。（当日参加は¥3,500）

Ⅳ　連絡先

会期前、会期中ともに、大会準備委員会（実施本部）への連絡は下記まで、電子メールでお願いします。実施本部では、当日 15 分ごとにメールチェックをおこないますので、緊急の連絡などありましたら連絡先電話番号などをお知らせいただければ、メールチェック確認後、本部よりご連絡させていただきます。

日本発達障害支援システム学会第 11 回大会準備委員会
電子メール　　jasssdd@u-gakugei.ac.jp

研究発表者へのご案内

【口頭発表】

１．発表時間

１）発表時間は１発表につき１５分で、質疑応答の時間３分が含まれます。

２）ご自身の発表時間以外は、他の分科会場やポスター会場にいらっしゃっても構いません。但し、学会場から出てしまうことはご遠慮下さい。終了時刻の 17:00 まではご参加頂くことが義務づけられます。

３）進行係が以下のように時間経過をお知らせします。

発表開始後 10 分：1 鈴　　12 分：2 鈴（発表終了）

15 分：3 鈴（質疑応答終了・交替）

２．発表用機器

発表にパソコンを使用する方は、発表データを USB 接続フラッシュメモリに保存し、接ション開始前までに会場にお越し下さい。パソコンは、Windows XP（パワーポイント 2003）を用意いたします。なお、Macintosh 版データや動画などが含まれるデータは、映像に支障をきたす場合がありますので、パソコンをご持参下さい（プロジェクタとの接続には、標準的なミニ D-SUB15 端子（アナログ）を使用します)。

３．座長の方へ

１）座長の方は担当セッションの司会・進行をお願い致します。特に制限時間を厳守するようにお願い致します。

２）各セッションに 1 名の座長をお願いしています。欠席の場合には新たに座長を決定しますので、前日までに E-mail にて大会準備委員会に必ずご連絡ください。

４．質疑・討論について

質疑や意見を述べる際には、事前に所属・氏名を明らかにしてください。

３０秒以内に簡潔にお願いします。その他、座長の指示に従って、セッションの進行に支障がないようにしてください。

５．その他

１）座長及び発表者は、セッション開始５分前までに当該分科会場に在席してください。

２）研究発表の資料は発表論文集をあてるのが原則ですが、補足資料の配布が必要な場合には、事前に発表者が必要部数を用意し、各会場の資料配布台に置いてください。

【ポスター発表】

1. 発表者は、発表時間中ポスターを掲示するとともに指定された時間在席し、参加者と質疑応答することにより、正式発表とみなされます。

2. 発表者は、総合受付にて発表受付を済ませ、発表開始５分前までにポスターの掲示を完了してください。

3. 掲示時間は 15：30～17：00、在籍責任時間は 16：15～17：00 です。ポスターは壁またはパーテーションに掲示してください。

4. ポスター掲示範囲は横幅 80cm×縦 150cm 以内が適当です。ポスターの最上部には、発表題目（フォントサイズ目安：72 ポイント）、発表者氏名（筆頭発表者に○を付ける）、及び所属を明示してください。本文は全紙、または何枚かに分けて貼る等の方法で掲示してください。文字の大きさや図、表の作成には特に注意してください。混み入った図や表の使用を避け、２m離れたところから全体が読めるようにしてください。

5. 掲示用のセロハンテープは会場内に用意してあります。

6. 当日資料を配布される方は、各自で必要部数を用意し、配布してください。個人情報との関係で、資料回収を必要とする場合は、発表者が責任をもって回収、処分してください。

7. 掲示終了時刻になりましたら、直ちにポスターを撤去してください。

大会スケジュール

１２月１６日（日）

会場	7号館3階 有山登記念館講堂	8号館1階 3番教室	9号館2階 8番教室	10号館2階 203号室	10号館8階 803号室	7号館 地下1階 職員食堂
12:00						
	受付（会場前） 開会					
12:30	**記念講演①** **講師　久保田 洋一** （順天堂大学 大学院客員教授 前順天堂大学蹴球部監督）					
13:45						
13:55	**記念講演②** **講師　広沢 正孝** （順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 教授 精神科医師）					
15:10						
15:30	第3分科会 学習支援 領域	第1分科会 ｲﾝｸﾙｰｼﾞﾌﾞ 教育領域	第2分科会 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 支援領域	第4分科会 生活支援・ 支援領域	第5分科会 支援ｼｽﾃﾑ 領域	ポスター発表 分科会Ⅰ・Ⅱ 掲示： 15:30～17:00 発表者在席： 16:15～17:00
17:00						
17:15	懇親会 （ 1号館＝2階 レストランヒルトップ ）					
18:30						

プログラム案内

＝第１部＝　（会場：７号館３階 有山登記念館講堂）

記念講演①　１２：３０～１３：４５

『スポーツが障害児・者にもたらす影響とその意義
**　ーパラリンピック・アスリートの成長記録よりー』**

＜講演＞

順天堂大学大学院　客員教授

前順天堂大学蹴球部　　監督　　久保田　洋一

＜司会＞

順天堂大学　　准教授　　渡邉　貴裕

【講演者プロフィール】

現在、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科客員教授。前順天堂大学蹴球部監督として、全日本大学サッカー選手権３連覇、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝をはじめ数々の偉業を成し遂げる。現サッカー解説者の名波浩氏等、日本代表選手やＪリーガーを多数輩出している。全日本大学サッカー選抜チーム日本代表監督歴任。専門分野はコーチング科学である一方、サッカーのゲーム分析やプロサッカー選手のキャリアチェンジ、コーディネーショントレーニングの効用等、幅広く研究を行っている。一方、家庭では自閉症の子を持つ父親でもあり、我が子をパラリンピック及びスペシャルオリンピックスの日本代表選手として育て上げた.

記念講演②　１３：５５～１５：１０

『高機能広汎性発達障害者にとっての生き甲斐とは
ー彼らの生きる世界を支えるためにー』

＜講演＞

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科　教授
精神科　医師　　広沢　正孝

＜司会＞

東京学芸大学　　教授　　菅野　敦

【講演者プロフィール】

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授。精神科医師。順天堂大学さくらキャンパス学生相談室室長、日本精神病理・精神療法学会評議員ならびに編集委員、日本サイコセラピー学会理事等を務める。
専門分野は精神病理学、精神保健学。

【主な著書】

■2012 年　『精神保健の課題と支援』（中央法規）
■2010 年　『成人の高機能広汎性発達障害とアスペルガー症候群
　　ー社会に生きる彼らの精神行動特性』（医学書院）
■2006 年　『統合失調症を理解する
　　―彼らの生きる世界と精神科リハビリテーション』（医学書院）
■2005 年　『現代の子どもと強迫性障害』(岩崎学術出版社)

高機能広汎性発達障害者にとっての生き甲斐とは

― 彼らの生きる世界を支えるために ―

広沢正孝
（順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科　教授，医師）

KEY WORDS: 高機能広汎性発達障害，成人，生き甲斐，自己イメージ

Ⅰ．はじめに

近年、高機能広汎性発達障害（以下高機能 PDD と記載）、とくにアスペルガー症候群は、児童・青年期精神医学の領域のみならず、成人の精神医学、学校・職場の精神保健領域、さらには教育現場においても注目されている。

子どもの場合と異なり、思春期以降の高機能 PDD 者で問題となるのは、PDD の諸特徴が「人格」、「人物像」に関わる問題として捉えられ、本人もまたこれらの問題を意識することが少なくない点であろう。そのような彼らの場合、子ども時代に有効とされるさまざまな治療プログラムでは、対応しきれない。

一方で成人の高機能 PDD 者は、しばしば特異な才能（ないしある分野における、社会の期待に十分応えられる才能）を持っている。そして彼らなりの「生き甲斐」もまた持っていることが多い。今、われわれに必要とされていることは、彼らとの共生のための「コツ」にあろう。そのためには、まずわれわれが、彼らの「こころの構造」を理解することが必要と思われる。

Ⅱ．高機能 PDD 者の「こころの構造」－PDD 型自己をめぐって

高機能 PDD 者の自己－世界感（自己－世界イメージ）を、あるプログラマー（25 歳の男性）の言葉を端緒にして述べていきたい。

「僕の頭はタッチパネルで、縦横に規則正しくアイコンが並んでいる。そのひとつひとつに重要な内容が入っていて、僕は必要なときに必要なアイコンにタッチする。そうするとそのウィンドウが開かれて、僕はそこを生きて、そこで仕事をする。そこに仕事人の僕がある。つまりプログラマーの僕。‥‥‥別の部分をタッチすると、そのウィンドウにまた僕がいる。全体としてタッチする順番が決まれば、僕の一日は順調に流れる」。

彼に限らず、高機能 PDD 者の自己－世界感は、タッチパネル状（ないし格子状）であることが多い。これはわれわれ一般者が持つ、自己イメージとは異なっている。一般者の自己イメージは、かつてユング（Jung CG）が指摘したように、1 点を中心に持つ放射＋同心円状をしており、常に明確な自分の核があり、かつそれを中心として種々の心的要素が統合的に配置されているものである。そしてわれわれは、そのような自己が、きちんと機能することこそが、「健康」ないし「正常」の条件とみなしている。われわれが「個性」と呼ぶものも、このようなイメージの範囲内のものであり、ただ各心的要素の配列の相違として説明されるものであろう（Jung）。

これに対して、高機能 PDD 者の己－世界感は、構造そのものが異なっており、一般者と PDD 者双方が困惑するのは、このレベルの相違（乗り越え難い壁）であるところが少なくない。

演者はかつて、タッチパネル状の自己構造を「PDD 型自己」、一方われわれが「正常」としている自己構造を「一般型自己」と命名した。

Ⅲ．「こころの構造」と価値観の問題　－心理学の原点に立ち返って－

こころの理解は、心理学（ないし「異常心理学」としての精神医学）によるところが大きい。しかし心理学の体系は、19 世紀末以降の西欧の価値基準に基づいて発展してきたところが大きい。暗黙の前提として、ユングが述べたようなイメージの「こころの構造」（自己－世界の構造）を唯一絶対の「正常」とみなした上で、種々の心的現象の説明がなされてきた。発達心理学も例外でなく、教育に大きな影響を与えた発達課題論も、最終的にはそのような自己－世界構造の構築を目指したものと思われる。

しかし一旦この理論を脇に置いて、ひとのこころを眺めてみると、異なった見方ができてくる。以前に演者は、ひとの「こころの構造」は、放射状構図と格子状構図の 2 つイメージの組み合わせから発展し、どちらを優位に利用するかは、生まれつきの素因（生物学的素因）によって決まり、最終的な「こころの構造」は、それに生育環境（両親や社会の価値観）が影響を及ぼす可能性を示した。

この視点に立つと、「PDD 型自己」とは、極端に格子状構図を優位に利用して構築された構造であり、「一般型自己」とは、あくまでも放射状構図を優位に利用しないと構築できない構造であることが示唆される。ただ、ひとが一般に両方の構図を持っている以上、われわれ一般人も、高機能 PDD 者のこころが、まったく読めないわけではないといえる。このことを象徴するかのように、「自称 PDD」、「PDD 的」な人が現在増え、また PDD の過剰診断も成人の精神科領域では問題となっている。

Ⅳ．高機能 PDD 者の精神行動特性と彼らの生き甲斐

われわれが、既存の価値観にとらわれず（既存の価値観を否定するのではなく、それが唯一・絶対のものとみなさないこと）、PDD 型自己の「こころの構造」を把握すると、一見了解不能に思われる彼らの精神行動特性（当日提示）も、理解できると思われる。そればかりではない。彼らの生き甲斐（当日説明）の質もまた理解でき、少なくともわれわれがそれを否定したり、妨げたりすることは少なくなると思われる。

（もちろん彼らの生き甲斐の追求に関しては、彼らもまた自らの「こころの構造」を理解し、社会の中で自分の行為が周囲にいかなる影響を与えるのかを、知っておく必要があろう）。

高機能 PDD 者との共生は、一朝一夕には行かない。しかしわれわれは、彼らが決して「冷たい」人物でもなく、その言動に真の「悪意」もなく、魅力的な「生き甲斐」をもっていることを理解する姿勢が、今の社会には必要なのではないかと思われる。

（参考文献）広沢正孝：成人の高機能広汎性発達障害とアスペルガー症候群－社会に生きる彼らの精神行動特性. 医学書院, 東京, 2010.

＝第２部＝

第１分科会　＝インクルーシブ教育領域＝
（8 号館 1 階 3 番教室）

座長：霜田浩信（群馬大学）

1-1 『特別支援教育コーディネーターからみた子どもの「生活と発達の困難」と支援（第５報）』
発表者：池田敦子（東京都立南大沢学園）、髙橋智（東京学芸大学）

1-2 『「教育困難校」と称される公立高校における特別支援教育の取り組みの成果と課題』
発表者：竹本弥生（神奈川県立綾瀬西高校）、田部絢子（東京学芸大学大学院・成女学園中学・成女高校）、髙橋智（東京学芸大学）

1-3 『私立中高一貫校の生徒指導・教育相談に関する研究』
発表者：三浦巧也（東京学芸大学大学院）

1-4 『通常学級の学習に遅れが疑われる児童生徒の特別な支援ニーズの特徴』
発表者：熊谷亮（東京学芸大学大学院）

1-5 『通常学級に在籍する病気がある児童生徒への教育支援に関する一考察』
発表者：川池順也（東京都立武蔵台学園）

1-6 『小中学校へ派遣される学生ボランティアが必要とする情報の検討』
発表者：霜田浩信（群馬大学）、井澤信三（兵庫教育大学）、星野常夫（文教大学）

第２分科会　＝コミュニケーション支援領域＝
（9 号館 2 階 8 番教室）

座長：大伴潔（東京学芸大学）

2-1 『通園施設における集団での課題活動への取り組み』
発表者：鈴木美代、髙橋淳子、西谷聡子、古澤康子、田野東子、鈴木祥、浮穴寿香（三鷹市北野ハピネスセンターくるみ幼児園）

2-2 『成人期自閉症者へのＰＥＣＳによるコミュニケーション支援体制の構築』
発表者：斗舛もも子、藤代渉史、根岸可那子、山崎彰雄、守谷奈央子、竹下洋久（社会福祉法人湘南の凪えいむ）

2-3 『発達障害児における活動への振り返り方法の分類』
発表者：大内睦美（群馬大学大学院）、霜田浩信（群馬大学）

2-4 『自己肯定感を高める進路指導のあり方』
発表者：稲垣理絵、小田部恵、小澤信幸（東京都立青峰学園）、菅野敦（東京学芸大学）

2-5 『知的障害者就労事業所における利用者へのアプローチを考える』
発表者：東竜太郎、大垣まどか（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）

2-6 『自閉症スペクトラム障害における文章理解の難しさについて』
発表者：綿貫愛子（東京学芸大学大学院）、大伴潔（東京学芸大学）

第３分科会　＝学習支援領域＝
（7 号館 3 階 有山登記念館講堂）

座長：林安紀子（東京学芸大学）

3-1 『成人期知的障害者の生涯学習支援に関する研究（Ⅵ）』
発表者：今枝史雄（大阪府立藤井寺支援学校）、菅野敦（東京学芸大学）

3-2 『特別支援学校（知的障害）中学部における体育の授業実践』
発表者：増澤貴宏（長野県木曽養護学校）

3-3 『知的障害者のダンス活動参加に対する支援の検討』
発表者：安藤歩（群馬大学大学院）、霜田浩信（群馬大学）

3-4 『合気道療法の研究と展望』
発表者：深草武志、白樫光徳、松村高志（A.S.A.研究会）

3-5 『自閉症児への造形実践』
発表者：早川礎子（愛国学園大学）

3-6 『日本特別支援教育理論史研究序説』
発表者：石川衣紀（白梅学園大学）、髙橋智（東京学芸大学）

第４分科会　＝生活支援領域＝
（10 号館 2 階 203 号室:カンファレンス室）

座長：細川かおり（東京福祉大学）

4-1 『発達障害青年の社会適応における困難と自立に向けた支援』
発表者：内藤千尋、田部絢子（東京学芸大学大学院）、髙橋智（東京学芸大学）

4-2 『生活支援の目標とその支援内容を類型化する』
発表者：照沼潤二、湯浅優美（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）

4-3 『重症心身障害者の生活機能の変化』
発表者：加藤昭和（社会福祉法人和枝福祉会若草）

4-4 『自己理解を深める生活支援チェックリストの活用』
発表者：山﨑達彦、原智彦（東京都立青峰学園）、菅野敦（東京学芸大学）

4-5 『病弱特別支援学校寄宿舎における子どもの多様な「発達と生活の貧困」の実態と教育支援（第３報）』
発表者：小野川文子（東京都立久留米特別支援学校）、髙橋智（東京学芸大学）

4-6 『通園施設における着脱指導の効果の検討』
発表者：田野東子　鈴木美代　古澤康子　鈴木祥　高橋淳子　西谷聡子　浮穴寿香
（三鷹市北野ハピネスセンターくるみ幼児園）

第 5 分科会　＝支援システム領域＝
（10 号館 8 階 803 号室:カンファレンス室）

座長：平井威（明星大学）

5-1 『特別支援学校を卒業した知的障害児施設入所者の地域移行に関する研究２』
発表者：平井威（明星大学）、大沼健司（東京都立七生特別支援学校）

5-2 『知的障害者就労事業所における作業提供に関する検討』
発表者：和田智之（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）

5-3 『エコロジーサービスコースにおける授業改善』
発表者：永峯秀人、吉岡富雄、中村正弘（東京都立青峰学園）、菅野敦（東京学芸大学）

5-4 『中国における自閉症診療の現状と課題』
発表者：于暁輝、高橋智（東京学芸大学）

5-5 『中国における特殊教育教師の養成現状』
発表者：呂暁彤（帝京科学大学）

5-6 『早期療育機関における集団適応を目標とした２歳児の活動プログラム実践』
発表者：西谷聡子、深沢きく子、花形宏美、高橋淳子、立仙由紀子、山元佳恵、
細沼由香、向井文枝、浮穴寿香（三鷹市北野ハピネスセンター）

ポスター発表分科会 I
（7 号館地下 1 階 職員食堂）

座長：伊藤浩（社会福祉法人幸会）

P1-1 『関東大震災下の東京市における教育復興計画と特別学級』
発表者：石井智也（東京学芸大学大学院）、石川衣紀（白梅学園大学）、
高橋智（東京学芸大学）

P1-2 『学校フィールドにおける発達障害児の行動問題への専門的支援・指導法の
導入に関する検討』
発表者：宮崎義成（かがわサポートセンター・ウイングス）

P1-3 『特別支援学校の海外修学旅行における学生ボランティアの役割』
発表者：真下和将（群馬大学大学院）、霜田浩信（群馬大学）

P1-4 『実習生に向けての最初のアプローチ』
発表者：浅川結（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）

P1-5 『知的障害者就労事業所における利用者への作業研究』
発表者：小高翔太（社会福祉法人武蔵野千川福祉会）

P1-6 『ダウン症候群の退行によって生じる症状に関する研究』
発表者：伊藤浩（社会福祉法人幸会）、菅野敦（東京学芸大学）

P1-7 『障害福祉サービスにおける高齢知的・発達障害者の退行による不適応症状と
支援方法に関する調査』
発表者：西郷俊介（NPO 法人大牟田知的障害者育成会ふれんず）

P1-8　『通園施設における午睡導入と子どもの変化・保護者の意識の変化について』
発表者：古澤康子、田野東子、鈴木祥、鈴木美代、西谷聡子、高橋淳子、浮穴寿香
（三鷹市北野ハピネスセンターくるみ幼児園）

ポスター発表分科会Ⅱ

（7 号館地下 1 階 職員食堂）

座長：爲川雄二（東北大学）

P2-1　『個別指導計画閲覧ウェブサイトにおける８年間の利用動向』
発表者：爲川雄二（東北大学）、橋本創一、林安紀子、菅野敦（東京学芸大学）

P2-2　『地域支援における巡回発達相談の役割』
発表者：山元佳恵、立仙由紀子、高橋淳子、西谷聡子、向井文枝、細沼由香、
浮穴寿香（三鷹市北野ハピネスセンター）

P2-3　『保育現場の巡回相談における行動チェックリストによる子どもの分類』
発表者：松尾彩子（東京学芸大学大学院）

P2-4　『通常学級に在籍するダウン症児と教師・周囲児等の関わり』
発表者：山田真幸（学校法人武蔵野東学園武蔵野東小学校）

P2-5　『小学校学級内児童における特別支援教育の理解促進に関する研究』
発表者：平田悠紀乃（国分寺子どもクラブ）

P2-6　『自閉症スペクトラム傾向の高さが大学生活に及ぼす影響』
発表者：髙林大輝（早稲田大学）

P2-7　『知的・発達障害児の対人場面における推論能力に関する事例的検討』
発表者：田中里実（清瀬市立清瀬第二中学校）

P2-8　『発達初期段階の知的・発達障害児における知的機能の発達特性』
発表者：根本彩紀子（東京学芸大学大学院）

日本発達障害支援システム学会

2012 年度 研究セミナー・研究大会
大会実行委員会（準備委員会）

委員長	渡邉　貴裕（順天堂大学）
副委員長	林　安紀子（東京学芸大学）
実行委員	伊藤　浩（社会福祉法人　幸会）
	大伴　潔（東京学芸大学）
	尾高　邦生（東京学芸大学附属特別支援学校）
	亀田　隼人（東京学芸大学附属特別支援学校）
	菅野　敦（東京学芸大学）
	小泉　浩一（東京学芸大学附属特別支援学校）
	腰川　一惠（聖徳大学）
	小島　道生（岐阜大学）
	霜田　浩信（群馬大学）
	世木　秀明（千葉工業大学）
	為川　雄二（東北大学）
	細川　かおり（東京福祉大学）
	横田　圭司（ながやまメンタルクリニック）
事務局長	橋本　創一（東京学芸大学）
大会事務局	田口　禎子（東京学芸大学）
	堂山　亞希（東京学芸大学）
	三浦　巧也（東京学芸大学）
	宮崎　義成（東京学芸大学）

（五十音別）

＜大会会場＞

順天堂大学　本郷キャンパス　渡邉貴裕研究室

〒113-8421　東京都文京区本郷 2-1-1

日本発達障害支援システム学会

〒184-8501　東京都小金井市貫井北町４－１－１（東京学芸大学教育実践研究支援センター内）

E-mail ： office@jasssdd.org　　Homepage ： http://www.jasssdd.org

2012 日本発達障害支援システム学会

第 11 回研究セミナー・研究大会協賛, 広告掲載ご芳名

順天堂大学

順天堂大学啓友会

東京学芸大学教育実践研究支援センター

（50 音順　敬称略）

本大会を開催するにあたり、上記の諸団体より多大なご支援を頂きました。
ここにそのご芳名を記して、心より感謝の意を表します。

2012 年 12 月

日本発達障害支援システム学会
代　表　菅　野　敦
日本発達障害支援システム学会
第 11 回研究セミナー／研究大会準備委員
実行委員長　渡　邉　貴　裕